

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 30 年 6 月 19 日現在

機関番号：83802

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K20724

研究課題名(和文)小児がん患者・家族のための心理・社会的支援プログラムの開発

研究課題名(英文)The research on the development of psychosocial support program for families of patients with childhood cancer

研究代表者

津村 明美 (Tsumura, Akemi)

静岡県立静岡がんセンター(研究所)・その他部局等・研究員

研究者番号：90595969

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：診断後早期の小児がん患者の主介護者である母親を対象に、自記式質問票を用いて、精神心理的苦痛の頻度を調査した。その結果、大うつ病性障害と評価された対象者は44%であった。心理社会的リスクを抱える小児がん患者・家族をスクリーニングするためのPsychosocial Assessment Tool 2.0 (PAT2.0)の日本語版を開発した。PAT2.0日本語版の信頼性と妥当性が確認され、小児がん患者・家族の心理社会的リスクの評価に用いることができる可能性が示唆された。

研究成果の概要(英文)：The frequency of psychological distress was investigated using questionnaires for mothers of children with cancer. As a result, 44% of mothers were evaluated as major depressive disorder. We developed the Japanese version of Psychosocial Assessment Tool 2.0 (PAT 2.0) for assessing psychosocial risk in families caring for a child with cancer. This study confirmed the reliability and validity of the PAT 2.0 Japanese version. It was suggested that the PAT2.0 Japanese version could be used for the evaluation of psychosocial risk of children with cancer and their families.

研究分野：がん看護

キーワード：小児がん 家族 心理・社会的支援

## 1. 研究開始当初の背景

がん治療の進歩により、小児がん患者の70%は治癒が見込めるまでに至っている。こどもががんに罹患すると、患者のみならず、その家族の成員全員が危機的状態に陥る。小児がん患者の親が経験するストレスは、患者のニーズへの対応、変化する家族生活への対処、経済的問題、精神的苦痛など、多岐にわたる。なかでも母親の精神的苦痛は、最も頻度が高く深刻であり<sup>1-4)</sup>、概ね20-30%程度の母親に介入が望まれる抑うつ、不安がみられることが示唆されている<sup>5,6)</sup>。また、これら主介護者の精神心理的苦痛は患者の診断後早期(1年以内)が最も高いことが知られている。小児がん患者の主介護者の精神心理的苦痛は、主介護者自身の苦痛のみならず、患者の心理状態および患者に対するケアの質といった、さまざまな側面に影響を及ぼす。

小児がん患者の家族の良好な適応は、患者のQOLにも影響するため、より早期から家族への適切な支援が求められている。欧米では、小児がん患者の診断後早期から支援を必要とする対象を、スクリーニングツールを用いて早期発見し、構造化された心理社会的介入を提供することで、精神的苦痛の軽減、心理社会的問題による家族の社会的不適応状態の改善、QOL向上などにおいて効果をあげている<sup>7)</sup>。

しかしながら、わが国における小児がん患者の主介護者の精神的苦痛の実態は明らかになっておらず、心理社会的支援を必要とする対象の把握、効果的なサポートやケアの開発を行う上での知見は極めて限られている。

## 2. 研究の目的

本研究では、小児がん患者の主介護者である母親における、抑うつや不安などの精神的苦痛の頻度および、これらの関連/予測要因を明らかにする。これらをもとに、小児がん患者・家族に対する介入プログラムの枠組みの考案とともに、心理社会的問題のスクリーニングツールの開発を行う。

## 3. 研究の方法

1) 研究1: 診断早期の小児がん患者の主介護者の精神心理的苦痛の実態と関連要因探索

診断早期の小児がん患者の主介護者である母親300名を対象に、自記式質問紙調査を行う。

抑うつ(Patient Health Questionnaire 9: PHQ9)をアウトカムとして、その発生率を明らかにする。次いで、先行研究から予測される、心理的外傷(IES-R)、ソーシャルサポート(MSPSS)、家族機能(FRI)、患者のQOL(PedsQL)等と抑うつとの間にある関連を分析し、その結果から介入プログラムの枠組みを考案する。

2) 研究2: Psychosocial Assessment Tool 2.0

## (PAT2.0)日本語版の開発

米国で小児がんの診断後早期から心理社会的リスクを抱える患者・家族をスクリーニングするために開発された Psychosocial Assessment Tool 2.0 (PAT2.0) の日本語版の信頼性・妥当性を検討する。

定められた翻訳ガイドラインに則り作成された日本語版を小児がん患者の主介護者である母親100名に計量心理学的検討のためのPAT2.0日本語版を含めた自記式質問紙調査を行う。

## 4. 研究成果

### 1) 研究1

2016年9月から2017年12月に64名の対象者に質問紙調査を行った。

対象者の年齢は24~47歳で平均年齢は37.3歳(±5.3)であった。こどもの年齢は0~15歳で平均年齢は5.6歳(±4.8)で、性別は男児32名(50%)、女児32名(50%)であった。がん種は、血液腫瘍26名(41%)、脳腫瘍14名(22%)、骨軟部腫瘍7名(11%)、その他の固形腫瘍17名(26%)であった。

大うつ病性障害をスクリーニングするためのPHQ-9によって重度の症状レベルであると評価された対象者は28名(44%)であった。

抑うつの関連要因に関しては、研究期間内に統計解析に耐えうるサンプルサイズの確保が困難であったため、今後も、施設を拡大し、目標症例数に到達するまで調査を継続していく予定である。

### 2) 研究2

#### (1) PAT2.0日本語版の開発

最初にPAT2.0の開発者より日本語版の作成の承諾を得た。原版の開発者より提示された Translation Guideline に則り、日本語版の翻訳プロセスをすすめ、日本語版原版を作成するとともに表面妥当性の検討を行った。

2名のバイリンガルが独立して日本語に翻訳したものを、小児がん患者・家族にかかわる専門職者である別のバイリンガルと研究者が統合し、さらに異なる1名のバイリンガルにより英語に逆翻訳し、PAT2.0原版開発者のレビューを受けた。そこで指摘された点に関して、精神腫瘍医・緩和ケア医・小児科医・心理士・がん看護専門看護師・小児科エキスパートナース・チャイルドライフスペシャリストにフォーカス・グループ・インタビューなどで検討した。

そのうえで、プレテストとして、7組の小児がん患者の家族に対してフォーカス・グループ・インタビューと個別面談を行い、PAT2.0日本語版原版に修正を加えた。

最終的に原版の開発者からPAT2.0日本語版の承認を得られた。

#### (2) PAT2.0日本語版の信頼性・妥当性の検討

2016年9月から2017年12月に117名(回収率94%)の対象者に質問紙調査を行った。

対象者の年齢は 22～53 歳で平均年齢は 37.7 歳 (±5.9) であった。こどもの年齢は 0～17 歳で平均年齢は 6.2 歳 (±5.0) で、性別は男児 66 名 (56%)、女児 51 名 (44%) であった。がん種は、血液腫瘍 45 名 (39%)、脳腫瘍 24 名 (20%)、骨軟部腫瘍 18 名 (15%)、その他の固形腫瘍 30 名 (26%) であった。

PAT2.0 日本語版の信頼性について、尺度全体の内の一貫性として KR20 は 0.8 と十分高く、良好な内的整合性が示された。安定性として、級内相関係数は 0.9 と十分高く、良好な再テスト信頼性が確認された。

PAT2.0 日本語版の妥当性について、基準関連妥当性として併存妥当性は、PAT2.0 日本語版のトータルスコアと PHQ-9、IES-R、MMSP、FRI、PedsQL の間に有意な相関がみられた。

構成概念妥当性として弁別妥当性は、PAT2.0 日本語版のトータルスコアを測定値として、PHQ-9 によって重度の症状レベルであると評価される参照基準を用いて Receiver Operating Characteristic (ROC) 分析を行ったところ、Area Under Curve (AUC) は 0.808 と良好な値を示した。

以上により PAT2.0 日本語版の信頼性と妥当性が確認され、小児がん患者・家族の心理社会的問題の評価に用いることができる可能性が示唆された。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

津村明美, 明智龍男: 【がん患者のこころを救え～サイコオンコロジーの最前線～】 小児がん患者・家族のこころのケア, 医薬ジャーナル, 52(12), 2701-2703, 2016

津村明美: 【非がん患者の緩和ケア】 (Part3) 小児・若年者への緩和ケア, 看護技術, 61(7), 719-722, 2015

貝瀬友子, 小山裕子, 馬場薫, 津村明美, 根岸恵: 英語圏における実証的研究を例にした複数の方法論的アプローチに関する検討, 関東学院大学看護学会誌, 3(1), 23-30, 2016

〔学会発表〕(計 3 件)

津村明美, 伊藤嘉規, 奥山徹, 近藤真前, 亀井美智, 伊藤康彦, 齋藤伸治, 佐藤伊織, 阿部啓子, 石田裕二, 明智龍男: 小児がん患者・家族のための Psychosocial Assessment Tool (PAT) 日本語版の開発 表面妥当性の検討, 日本緩和医療学会学術大会, 第 22 回, 2017

津村明美, 黒木香也子, 小林幸, 土屋幸雄, 阿部 啓子: AYA 世代のがん患者・がん経験者を対象としたピアサポートプログラム立ち

上げの取り組み, 日本がん看護学会学術集会, 第 31 回, 2017

津村明美, 野口啓子, 加藤宏美, 石田裕二: がん闘病中の高校生の教育支援における調整会議を運営するためのガイドの考案, 日本小児血液・がん学会, 第 58 回, 2016

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕なし

<引用・参考文献>

- 1) Ozono S, Saeki T, Mantani T, Ogata A, Okamura H, Nakagawa S, Ueda K, Inada H, Yamazaki S. Psychological distress related to pattern of family functioning among Japanese childhood cancer survivors and their parents. *Psycho-Oncology*, 19, 545-552, 2010
- 2) Pai AL, Greenley RN, Lewandowski A, Drotar D, Youngstrom E, Peterson CC. A meta analytic review of the influence of pediatric cancer in parent and family functioning. *Journal of Family Psychology*. 21(7), 407-415, 2007
- 3) Barrera M, Atenafu E, Doyle J, Berlin-Romalis D, Hancock K. Differences in mothers' and fathers' psychological distress after pediatric SCT: a longitudinal study. *Bone marrow transplantation* 2012; 47: 934-9.
- 4) Manne SL, Du Hamel K, Gallelli K, Sorgen K, Redd WH. Posttraumatic stress disorder among mothers of pediatric cancer survivors: diagnosis, comorbidity, and utility of the PTSD checklist as a screening instrument. *Journal of pediatric psychology* 1998; 23: 357-66.
- 5) Manne S, DuHamel K, Ostroff J et al. Anxiety, depressive, and posttraumatic stress disorders among mothers of pediatric survivors of hematopoietic stem cell transplantation. *Pediatrics* 2004; 113: 1700-8.
- 6) Tremolada M, Bonichini S, Aloisio D, Schiavo S, Carli M, Pillon M. Post-traumatic stress symptoms among mothers of children with leukemia undergoing treatment: a longitudinal study. *Psychooncology* 2013; 22: 1266-72.
- 7) Pai AL, Patino-Fernandez AM, McSherry M, et al. The Psychosocial Assessment

Tool (PAT2.0): psychometric properties of a screener for psychosocial distress in families of children newly diagnosed with cancer. *J Pediatr Psychol* 2008; 33: 50-62.